

## 2013年度第6回執行理事会議事録

期 日：2013年11月9日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務所

出席者：石渡会長 渡部副会長 齋藤常務理事 井龍  
高木 内藤 西（早退） 平田 星 保柳 松  
田 山路 山本（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出，未記入議場委任）：ウォリス副会  
長 伊藤 坂口 中澤 山口

\*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委  
任状5名，合計18名の出席。

\*前回議事録の確認

### I 審議事項

#### 1. 鹿児島大会の運営委託会社の選定について

鹿児島の実行委員会の意向は，アカデミックブレ  
インズへの委託を希望。

アカデミックブレインズへ委託する方向で進める  
ことを承認。

#### 2. 2015年信州大会について（保柳）

会場の問題：松本キャンパスの共通教育棟の改修  
が，2014，2015年度で行われる。

対策として下記の3案が考えられるが，どれも一  
長一短がある。

- 1) 共通教育棟の改修終了部分を借りて開催。
- 2) 人文・経済，理学部，医学部棟を使って開催。
- 3) 長野市の工学部での開催。

松本コンベンションセンターにも問い合わせてみ  
る。どうしても無理な場合は，返上の可能性も考え  
られるので，中部支部で今一度検討する。

#### 3. 市民対象の学会行事開催時に警報が発表された場 合の対応について（星）

仙台大会では会期中に台風が襲来したが，警報発  
表時の学会の対応が決まっていなかったために情報  
連絡等で混乱が起こった。市民の安全と学会の社会  
的信用に関わることであるため，警報や特別警報が  
発表されたときの学会の対応を事前に決めておく必  
要がある。

緊急の連絡方法としては学会ホームページを利用  
し，事前にそのことを周知するという方向で行事委  
員会に検討して頂く。

#### 4. 『地質学雑誌投稿編集出版規則，B-1-f』改正の件 （口絵の定義変更）（山路）

口絵では，説明内容の新規性は必須ではなく，写  
真や絵が目新しく魅力的である事が必須であるとい  
う提案。執行理事会としては，山路編集委員長の提  
案を認め，理事会の議事にあげることにした。

#### 5. 12月理事会の議案について

- ・鉱物資源部会の設立について
- ・中期ビジョンの案件を盛り込む。
- ・来年度の事業計画（案）について。

・名誉会員推薦委員会，理事会推薦委員の選出につ  
いて。

・総会の日程の決定。

・125周年記念行事についての検討。

・口絵の規定変更の件。

#### 6. その他

・各賞推薦（11月末〆切）に関して，各部会に推薦  
を働きかける。

### II 報告事項

#### (1) 全体的報告

1. 地球全史スーパー年表の刊行について，理事会メ  
ール審議の結果，全会一致で承認された。
2. 2014年地球惑星科学連合大会の環境・災害対応委  
員会によるセッション「連合は環境・災害にどう向  
き合っていくのか？—東日本大震災の教訓」での地  
質学会の取り組みについての発表要請が小荒井委員  
を通じてあり，発表者として高木理事（本人承諾）  
を推薦した。
3. 2015年 GSA米国地質学会の海外大会と地質学会の  
共催にたいし，地惑連合も共催又は同時開催するこ  
とに賛同が得られた。また，このことはGSA米国地質  
学会の会長も賛同されたとの報告がYildirim Dilek  
氏より石渡会長にあった。同大会のタイトルとして  
石渡会長は「Strong on Subduction Zone」を提案し  
た。（石渡会長）。地質学会は，巡検の部分を担当す  
る（5月の下旬）。
4. 地球惑星科学連合，第9回学協会長会議（10/18）  
に会長出席の報告。（石渡会長）
5. 第2回G-EVER国際シンポジウム・第1回IUGS・日  
本学術会議国際ワークショップ（10/19-20）報告（石  
渡会長）。学会のホームページにも掲載。
6. 第68回大韓地質学会年会への招待参加報告（石渡  
会長）。
7. 東電福島第一原発における汚染水処理対策，特に，  
地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁，フェーシング  
等）について，日本陸水学会が問題有りとして別提案：「地  
下水流入抑制にかかわる導水路の設置」。経産省のホ  
ームページに福島第一原子力発電所における汚染水  
対策に関する掲載欄がある。本件については，  
geo-flash等で流す。
8. 総合資源エネルギー調査会電力・ガス事業分科会  
原子力小委員会地層処分技術WG報告（渡部副会長）。
9. 2014年度総会会場の確保：5月24日（土）北とび  
あ第2研修室9時～17時。
10. 朝日新聞出版から分冊百科「地球46億年の旅」が  
広島でテスト創刊を開始，現在3号まで刊行済み。  
1月23日に本創刊することが決定したとの報告を編  
集部から受けた。

11. 選挙管理委員会から、代議員選挙の報告

全国区、地方支部区とも立候補者数は定数を超えず、全員を無投票当選とすることとなったことが報告された。会長・副会長への立候補意思表明者の意向調査のみ行う。

全国区84名、地方支部区87名、合計 171名

(2) 運営財政部会：総務委員会 (西・山本)

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1. 第55回藤原賞 (藤原科学財団) の推薦依頼 (1/31 〆切, 学会〆切12/25) ←HP, geo-flash Newsに掲載
2. 平成26年度東京大学大気海洋研究所および国際沿岸海洋研究センターの共同利用について (11/29〆切) ←HP, geo-flash Newsに掲載
3. 東京大学大気海洋研究所学際連携研究の公募 (12/4 〆切) ←HP, geo-flash Newsに掲載
4. IGCP608「白亜紀のアジア-西太平洋地域の生態系システムと環境変動」第2回国際シンポジウム (代表安藤寿男, 2014/09/6-8) の共催を承諾

<会員>

1. 今月の入会者 (1名)

正会員(1名)：平田岳史

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者 なし

4. 2013年10月末日会員数

賛助:27 名誉:67 正会員:3903 (正会員: 3689, 正 (院割) 会員:196, 正 (学部割) 会員:18 合計 3997 (昨年比-86)

<会計>

- ・25年度科研費確定通知あり。
- ・仙台大会の収支概算 収支差額プラス約30万円ほどの見込み。

(3) 広報部会：広報委員会 (内藤・松田)

・ジオルジュ2013年後期号刊行。

・「地質学者に答えてもらおう」の報告。

いくつか回答要請があるので早急に片付けたい、その他、学会への直接質問は、質問者に近い各地の博物館等に回すようにしている。

(4) 学術研究部会：行事委員会 (星)

・行事関係報告：来年の地質情報展、鹿児島大会について

・仙台大会参加者：983 (名簿登録者)

市民行事参加者：情報展 2,118名、市民講演会 150名? シンポジウム 350名

・今年の反省点より、今後巡検のコース案内には難易度等を示す文言が必要。

(5) 学術研究部会：国際交流委員会 (井龍)

・第2回G-EVER国際シンポジウム・第1回IUGS・日本学術会議国際ワークショップが無事終了した。

・第68回大韓地質学会年會に石渡会長が招待され、ウォリス副会長とともに参加された。

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会 (山路)

- 1) 編集状況報告 (11月8日現在)

・2013年度投稿論文 総数69編 [論説33 (和文32 英文1)・総説7 (和文7)・報告5 (和文5)・ノート2 (和文2)・討論2・口絵8 (和文7, 英文1)・巡検案内書12]

・査読中24編, 受理済み3編

・118巻11月号: 論説2, ノート1, 報告1, 討論2 (計約42頁 校正中)

・118巻11月号より, コンプライアンスに関する文章を記載論文末尾に掲載。また学会HPにも同文章を掲載した。

・現在, 受理済み原稿が減少している。geo-flash等でその状況をアナウンスし, 原稿の掘り起こしを行う。

(7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会 (伊藤)

・編集状況ほか報告

(8) 編集出版部会：企画出版委員会 (山口・保柳)

・富士・青木ヶ原たんけんリーフレットの2回目の校閲終了, 著者返却中。

・長瀨たんけんリーフレットの企画提案 (高木) については, 企画出版委員会に回す。

(9) 社会貢献部会 (高木・平田・中澤・保柳)

・秋季研修会の受講者は定員通り6名となった。

(10) ジオパーク支援委員会 (高木)

・4年目の日本ジオパーク再認定審査が現在行われており, 12月16日の日本ジオパーク委員会で決定される。

対象ジオパーク: 山陰海岸, 恐竜渓谷ふくい勝山, 天草御所浦あわせて, 伊豆半島ジオパークのエリア拡大申請 (北西部の静岡県長泉町と清水町にまたがる範囲) についての是非も検討される予定。

(11) 支部長連絡会議 (渡部)

各県の石に関する企画。特に進展なし。

(12) 地質災害委員会 (斎藤)

・伊豆大島における台風26号による土砂災害について。

産総研と国土理知院の共同調査。あまり報道されていないが砂防ダムはかなり有効だった。

(13) 地質技術者教育委員会 (山本)

・土質・地質技術者生涯学習協議会により, 継続教育CPDの利用環境の改善についての利用者アンケートが実施されている。geo-flashにて会員にも周知。

(14) 125周年記念事業準備委員会

・10/19 (土) に委員会を開催: 矢島委員長より報告あり

事業実施年である2018年度までのスケジュールが示された。12月の理事会で報告検討。

以上

2013年12月7日

一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長 (代表理事) 石渡 明  
署名人 執行理事 斎藤 眞